

コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ

コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ

コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティは、以下のような操作を行う場合に使用します。


- コンピューターの工場出荷時の設定の変更
- コンピューター (リアルタイム クロック) の日付 (Date) と時刻 (Time) の設定
- システム構成 (プロセッサ、グラフィックス (ビデオ)、メモリ、オーディオ、記憶装置、通信ポート、入力装置など) の表示、設定の変更、または確認
- 起動可能なデバイスの起動順序 (Boot Order) の変更。起動可能なデバイスとしては、ハードディスク ドライブ、オプティカル ドライブ、USB フラッシュ メディア デバイスなどがあります。
- クイック ブート (Quick Boot) の有効化。クイック ブートでは、フル ブートよりもコンピューターをすばやく起動できますが、フル ブートで実行される診断テストの一部が省略されます。なお、システムは以下のように設定できます。
 - 常にクイック ブート (初期設定)
 - 定期的にフル ブート (毎日~30 日まで指定可)
 - 常にフル ブート
- POST (Power-On Self-Test) メッセージ (Post Message) の有効 (Enable) /無効 (Disable) の選択による、メッセージの表示状態の変更。非表示状態では、メモリ カウント、製品名、エラーではないその他のテキスト メッセージなど、ほとんどの POST メッセージが表示されません。POST エラーが発生した場合には、選択した設定に関係なくエラー メッセージが表示されます。POST 実行中に非表示モードから表示モードに切り替えるには、F1~F12 キー以外の任意のキーを押してください。
- オーナーシップタグ (Ownership Tag) の設定。オーナーシップタグを設定しておくと、システムを起動または再起動するたびにコンピューターの所有者に関する情報が画面上に表示されません。
- 会社によって割り当てられたアセットタグ (Asset Tag) または資産 ID 番号の設定
- システムの起動時だけでなく、再起動時の電源投入時パスワード入力画面の有効化

- セットアップ パスワード (Setup Password) の設定。セットアップ パスワードは、コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティおよびこのガイドで説明する設定にアクセスする場合に使用します。
- シリアル ポート、USB コネクタ、パラレル ポート、オーディオ、内蔵 NIC (ネットワーク インターフェイス コントローラー) などの内蔵 I/O 機能の使用禁止/許可の設定
- リムーバブル メディアからの起動 (Removable Media Boot) の有効/無効の設定
- POST で検出されて自動修復できなかったシステム構成のエラーの解決
- リプリケート セットアップ機能の利用。コンピューターの設定情報を USB フラッシュ メディア デバイスまたはディスクをエミュレートするその他の記憶装置に保存し、その情報を使用して複数のコンピューターを同じ設定にできます。
- 特定の ATA ハードディスク ドライブのセルフテストの実行 (ドライブでサポートされている場合)
- ドライブロック セキュリティ (DriveLock Security) の有効/無効の設定 (ドライブでサポートされている場合)

コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティの起動

コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティには、コンピューターの電源を入れるか再起動することによってのみアクセスできます。コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティを起動するには、以下の操作を行います。

1. コンピューターの電源を入れるか再起動します。Microsoft® Windows®を使用している場合は、[スタート]→[シャットダウン]→[再起動]の順に選択します。
2. 画面下に「Press the ESC key for Startup Menu」と表示されている間に **Esc** キーを押します。

 **注記：** 適切なタイミングで **Esc** キーを押せなかった場合は、コンピューターを再起動して、モニター ランプが緑色に点灯したときにもう一度 **Esc** キーを押します。

3. **F10** キーを押し、コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティを実行します。
4. コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティのメイン画面から 5 つのメニュー ([ファイル] (File)、[ストレージ] (Storage)、[セキュリティ] (Security)、[電源] (Power)、[カスタム] (Advanced)) を選択できます。
5. 左右の矢印キーでメニューを選択し、上下の矢印キーで項目を選んで **Enter** キーを押します。コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティのメニューに戻るには、**Esc** キーを押します。
6. 変更した設定を有効にして保存するには、[ファイル]→[変更を保存して終了] (Save Changes and Exit) の順に選択します。
 - 変更した設定を破棄したい場合は、[変更を保存しないで終了] (Ignore Changes and Exit) を選択します。
 - 工場出荷時の設定値または以前保存した初期設定値 (一部のモデルのみ) に戻す場合は、[初期設定値に設定して終了] (Apply Defaults and Exit) を選択します。このオプションは、工場出荷時のシステムの初期値を復元します。

△ 注意： CMOS の損傷を防ぐため、コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティでの変更が BIOS に保存されている最中に、コンピューターの電源を切らないでください。コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティの終了後にのみ、安全にコンピューターの電源を切ることができます。

表 1 コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ

説明	表
ファイル (File)	3 ページの「コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [ファイル] (File)」
ストレージ (Storage)	5 ページの「コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [ストレージ] (Storage)」
セキュリティ (Security)	8 ページの「コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [セキュリティ] (Security)」
電源 (Power)	12 ページの「コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [電源] (Power)」
カスタム (Advanced)	13 ページの「コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [カスタム] (Advanced)」

コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [ファイル] (File)

📝 注記： コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 2 コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [ファイル] (File)

項目	説明
システム情報 (System Information)	以下の項目を表示します <ul style="list-style-type: none">製品名 (Product Name)SKU 番号 (SKU Number) (一部のモデルのみ)プロセッサ タイプ/速度/ステッピング (Processor Type/Speed/Stepping)キャッシュ サイズ (Cache size) (L1/L2/L3) : デュアル コア プロセッサの場合は 2 回表示されます取り付けられているメモリのサイズ/処理速度、チャンネルの数 (シングルまたはデュアル) (必要に応じて)有効な内蔵 NIC 用の内蔵 MAC アドレス (Integrated MAC) (必要に応じて)システム BIOS (System BIOS) : システム ファミリの名前とバージョン本体シリアル番号 (Chassis Serial Number)アセット タグ (Asset Tracking Number)ME ファームウェア バージョン (ME Firmware Version)ME 管理モード (ME Management mode)
バージョン情報 (About)	著作権情報を表示します

表 2 コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [ファイル] (File) (続き)

項目	説明
日付と時刻 (Set Time and Date)	システムの時刻と日付を設定できます
フラッシュ システム ROM (Flash System ROM)	リムーバブルメディアに収録された BIOS イメージファイルを使用してシステム ROM を更新できます
複製セットアップ (Replicated Setup)	<p>[リムーバブル メディアに保存] (Save to Removable Media)</p> <p>USB フラッシュ メディア デバイスまたはディスクと同等のデバイス (ディスク ドライブをエミュレートするよう設定された記憶装置) に、CMOS を含めたコンピューターの設定情報を保存します</p> <p>[リムーバブル メディアから復元] (Restore from Removable Media)</p> <p>USB フラッシュ メディア デバイスまたはディスクと同等のデバイスに保存されているシステム構成を復元します</p>
初期値の変更 (Default Setup)	<p>[現在の設定を初期設定として保存] (Save Current Settings as Default)</p> <p>現在のシステム構成の設定を初期設定として保存します</p> <p>[工場出荷時の設定を初期設定として復元] (Restore Factory Settings as Default)</p> <p>出荷時のシステム構成の設定を初期設定として復元します</p>
初期値に設定して終了 (Apply Defaults and Exit)	現在選択されている初期設定を適用し、すべてのパスワード設定を消去します
変更を保存しないで終了 (Ignore Changes and Exit)	変更した設定値を破棄し、コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティを終了します
変更を保存して終了 (Save Changes and Exit)	変更した設定値や初期設定を保存し、コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティを終了します

コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [ストレージ] (Storage)


 **注記：** コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 3 コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [ストレージ] (Storage)

項目	説明
デバイス構成 (Device Configuration)	<p>取り付けられているストレージ デバイスのうち、BIOS で制御されるものをすべて表示します</p> <p>デバイスを選択すると、そのデバイスに関する詳細情報およびオプションが表示されます。以下のような項目が表示されます</p> <p>[CD-ROM] : サイズ、モデル、ファームウェア バージョン、シリアル番号、コネクタの色、SMART、エミュレーション タイプ</p> <p>[ハードディスク] (Hard Disk) : サイズ、モデル、ファームウェア バージョン、シリアル番号、コネクタの色</p> <p>[変換モード] (Translation Mode) (ATA ディスクのみ)</p> <p>デバイスで使用する変換モードを選択します。これにより BIOS は、他のシステム上でパーティション分割およびフォーマットされたディスクにアクセスできます。これは、旧バージョンの UNIX (SCO UNIX バージョン 3.2 など) のユーザーにとって必要な場合があります。オプションには、[自動] (Automatic)、[ビットシフト] (Bit-Shift)、[LBA 支援] (LBA Assisted)、[ユーザー] (User)、および[オフ] (Off) があります</p> <p>ドライブ変換モードが[ユーザー]に設定されている場合にのみ有効です。パラメータ (論理シリンダー (Logical Cylinders)、ヘッド (Heads)、およびトラック当たりのセクター数 (Sectors Per Track)) を指定できます。BIOS はこれを使用して (オペレーティング システムやアプリケーションからの) ディスク I/O 要求を、ハードディスク ドライブで受け入れ可能な様式に変換します。論理シリンダーは 1024 を超えることはできません。ヘッド数は 256 を超えることはできません。トラック当たりのセクター数は 63 を超えることはできません</p> <p>注意： 通常は、BIOS によって自動的に選択された変換モードを変更しないでください。選択された変換モードが、ディスクをパーティション分割およびフォーマットしたときにアクティブであった変換モードと互換性がないと、ディスク上のデータにアクセスできなくなります</p> <p>[デフォルト値] (Default Values) (ATA ディスクのみ)</p> <p>[SATA デフォルト値] (SATA Defaults)</p> <p>詳しくは、上記の「変換モード」を参照してください</p>

表 3 コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [ストレージ] (Storage) (続き)

項目	説明
ストレージ オプション (Storage Options)	<p>[eSATA ポート] (eSATA Port)</p> <p>SATA を外付けドライブ用の eSATA ポートとして設定できます。初期設定では有効になっていません</p> <p>[SATA 構成] (SATA Emulation)</p> <p>SATA コントローラーおよびデバイスにオペレーティング システムからアクセスする方法を選択できます。サポートされている 3 つのオプションは、IDE、RAID、および AHCI (デフォルト) です</p> <ul style="list-style-type: none">• IDE: これら 3 つのオプションの中で最も後方互換性がある設定です。通常オペレーティング システムでは、IDE モードで追加のドライバー サポートは必要ありません• RAID: RAID ボリュームへの DOS アクセスおよびブート アクセスが可能です。オペレーティング システムにロードされた RAID デバイス ドライバーで RAID 機能を使用する場合は、このモードを使用します• AHCI (初期設定時のオプション): AHCI デバイス ドライバーがロードされているオペレーティング システムで、SATA コントローラーのより高度な機能を利用できます <p>注記: RAID/AHCI ボリュームからブートを試みる前に、RAID/AHCI デバイス ドライバーをインストールする必要があります。必要なデバイス ドライバーをインストールしないで、RAID/AHCI ボリュームからブートを試みると、システムがクラッシュします (ブルー スクリーンが表示されます)。RAID を無効に設定した後でブートを行うと、RAID ボリュームが破損する可能性があります</p> <p>注記: RAID はウルトラスリム モデルでは使用できません</p> <p>[リムーバブル メディアの起動] (Removable Media Boot)</p> <p>リムーバブル メディアからシステムを起動する機能の有効/無効を設定します。初期設定では有効になっています</p> <p>[eSATA 最大速度] (Max eSATA Speed)</p> <p>eSATA 最大速度として 1.5 Gbps または 3.0 Gbps を選択できます。初期設定では、信頼性を最大にするため、速度は 1.5 Gbps に制限されています</p> <p>注意: 3.0 Gbps の速度を有効にする前に、お使いの eSATA ドライブおよびケーブルの製造元に問い合わせてください。一部のドライブとケーブルの組み合わせでは、3.0 Gbps での動作が不安定になることがあります</p> <p>注記: eSATA はウルトラスリム モデルでは使用できません</p>

表 3 コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [ストレージ] (Storage) (続き)

項目	説明
DPS セルフテスト (DPS Self-Test)	<p>DPS (Drive Protection System) セルフテスト機能を持つ ATA ハードディスク ドライブのセルフテストを実行します</p> <p>注記: この項目は、1 台以上の DPS セルフテスト機能を持つハードディスク ドライブがシステムに接続されている場合のみ表示されます</p>
起動順序 (Boot Order)	<p>以下の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none">EFI ブート ソース (USB フラッシュ メディア デバイス、USB ハードディスク ドライブ、USB オプティカル ドライブ、内蔵オプティカル ドライブなど) に起動可能なオペレーティング システムのイメージがあるかどうかをチェックする順序を指定します。一覧上の各デバイスは、起動可能オペレーティング システムのソースとして個別にチェック対象から除外したり、チェック対象に含めたりできますレガシー ブート ソース (ネットワーク インタフェース カード、内蔵ハード ディスク ドライブ、USB オプティカル ドライブ、内蔵オプティカル ドライブなど) に起動可能なオペレーティング システムのイメージがあるかどうかをチェックする順序を指定します。一覧上の各デバイスは、起動可能オペレーティング システムのソースとして個別にチェック対象から除外したり、チェック対象に含めたりできます接続されたハードディスク ドライブの起動順序を指定します。最初のハードディスク ドライブは起動順序が優先され、C ドライブとして認識されます (他にデバイスが接続されている場合) <p>注記: MS-DOS®のドライブ名の割り当ては、MS-DOS 以外のオペレーティング システムが起動された後は、適用されない場合があります</p> <p>[一時的に優先される起動順序へのショートカット] (Shortcut to Temporarily Override Boot Order)</p> <p>起動順序で指定した初期設定のデバイス以外のデバイスから一度だけ起動するには、コンピューターを再起動し、モニター ランプが緑色に点灯している間に F9 キーを押します。POST が完了すると、起動可能デバイスの一覧が表示されます。矢印キーを使用して目的の起動デバイスを選択し、Enter キーを押します。初期設定以外の選択したデバイスから、コンピューターが一度だけ起動されます</p>

コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [セキュリティ] (Security)


 **注記：** コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 4 コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [セキュリティ] (Security)

項目	説明
セットアップ パスワード (Setup Password)	<p>セットアップ (管理者) パスワードを設定して有効にします</p> <p>注記： セットアップ パスワードを設定すると、コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティの設定を変更したり、ROM をフラッシュしたり、Windows 環境で特定のプラグ アンド プレイ設定を変更したりする場合にセットアップ パスワードが必要になります</p> <p>注記： この項目は、ドライブブロック機能をサポートするハードディスク ドライブが少なくとも 1 台システムに接続されている場合にのみ表示されます</p>
電源投入時パスワード (Power-on Password)	<p>電源投入時パスワードを設定して有効にします。電源を入れなおしたときに、電源投入時パスワードの入力画面が表示されます。ユーザーが正しい電源投入時パスワードを入力しない場合、装置は起動しません</p> <p>注記： この項目は、ドライブブロック機能をサポートするハードディスク ドライブが少なくとも 1 台システムに接続されている場合にのみ表示されます</p>
パスワード オプション (Password Options) (電源投入時パスワードまたはセットアップ パスワードが設定されている場合にのみ表示されます)	<p>以下の項目の有効/無効を設定します</p> <ul style="list-style-type: none">レガシーリソースのロック (セットアップパスワードを設定した場合に表示されます)。初期設定では有効になっています閲覧モードの設定 (セットアップパスワードを設定した場合に表示されます)。セットアップパスワードを入力しない場合は、コンピューターセットアップ (F10) ユーティリティのオプションを表示できますが、変更はできません。初期設定では有効になっていますF9、F11、および F12 でのパスワード プロンプト (セットアップ パスワードを入力せずにメニューにアクセス可能)。初期設定では有効になっていますネットワーク サーバー モード (セットアップ パスワードを設定した場合に表示されます)。初期設定では無効になっています
スマートカバー (Smart Cover) (一部のモデルのみ)	<p>以下の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none">カバー ロックのロック/ロック解除カバー取り外しセンサーの[無効] (Disable) /[ユーザーに通知] (Notify User) /[セットアップパスワード] (Setup Password) への設定 <p>注記： [ユーザーに通知]に設定すると、カバーが取り外されたことをセンサーが検出した場合にユーザーに通知されます。[セットアップパスワード]に設定すると、カバーが取り外されたことをセンサーが検出した場合に、セットアップ パスワードを入力しなければコンピューターをブートできないようにします</p> <p>この機能は一部のモデルでのみサポートされます</p>

表 4 コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [セキュリティ] (Security) (続き)

項目	説明
デバイス セキュリティ (Device Security)	<p>以下のデバイスに関する、[デバイス有効] (Device Available) / [デバイス無効] (Device Hidden) を設定できます。初期設定では[デバイス無効]になっています</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 内蔵セキュリティ デバイス (Embedded security device) (一部のモデルのみ) ● システム オーディオ (System audio) ● シリアル ポート (Serial Port) (一部のモデルのみ) ● パラレル ポート (Parallel Port) (一部のモデルのみ) ● ネットワーク コントローラ (Network Controller) ● SATA0 ● SATA1 ● SATA2 (一部のモデルのみ) ● SATA4 (一部のモデルのみ) ● eSATA (一部のモデルのみ)
USB セキュリティ (USB Security)	<p>以下のデバイスに関する[有効] (Enabled) / [無効] (Disabled) を設定できます (初期値は[無効])</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 前面 USB ポート (Front USB Port) <ul style="list-style-type: none"> ◦ USB ポート 1 (USB Port 1) ◦ USB ポート 2 (USB Port 2) ◦ USB ポート 3 (USB Port 3) ◦ USB ポート 4 (USB Port 4) ● 背面 USB ポート (Rear USB Port) <ul style="list-style-type: none"> ◦ USB ポート 1 (USB Port 1) ◦ USB ポート 2 (USB Port 2) ◦ USB ポート 3 (USB Port 3) ◦ USB ポート 4 (USB Port 4) ◦ USB ポート 5 (USB Port 5) ◦ USB ポート 6 (USB Port 6) ● アクセサリ USB ポート (Accessory USB Port) <ul style="list-style-type: none"> ◦ USB ポート 1 (USB Port 1) ◦ USB ポート 2 (USB Port 2)
スロット セキュリティ (Slot Security)	<p>PCI スロットまたは PCI Express スロットを無効にできます。初期設定では有効になっています</p>
ネットワーク ブート (Network Boot)	<p>ネットワーク サーバーにインストールされたオペレーティング システムからコンピューターを起動する機能を有効または無効にします。NIC (LAN ボード) が搭載されているモデルのみで使用でき、ネットワーク コントローラが PCI 拡張カードであるか、システム ボードに組み込まれている必要があります。初期設定では有効になっています</p>

表 4 コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [セキュリティ] (Security) (続き)

項目	説明
システム ID (System IDs)	<p>以下の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> [アセット タグ] (Asset Tag, 18 バイトの ID) : 会社によってコンピューターに割り当てられた資産 ID 番号 [オーナーシップタグ] (Ownership Tag, 80 バイトの ID) : POST 実行中に表示されます [本体シリアル番号] (Chassis Serial Number) または[UUID] (Universal Unique Identifier) の入力。UUID は現在の本体シリアル番号が無効の場合にのみ更新できます (通常これらの識別 (ID) 番号は工場出荷時に設定され、そのシステムを特定するために使用されます) [システム ID エントリに対する[キーボード] (Keyboard Locale) の設定
システムのセキュリティ (System Security) (一部のモデルのみ : これらのオプションはハードウェア依存)	<p>[データ実行防止] (Data Execution Prevention) (一部のモデルのみ) : 有効/無効に設定します。オペレーティング システムのセキュリティの侵害を防止できます。初期設定では有効になっています</p> <p>[仮想化技術] (VTx : Virtualization Technology) (一部のモデルのみ) : 有効/無効に設定します。プロセッサの仮想化機能を制御します。この設定を変更するには、コンピューターの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります。初期設定では無効になっています</p> <p>[I/O 仮想化技術] (Virtualization Technology Directed I/O) (一部のモデルのみ) : 有効/無効に設定します。チップセットの仮想化 DMA リマップ機能を制御します。この設定を変更するには、コンピューターの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります。初期設定では無効になっています</p> <p>[Intel TXT (LT) サポート] (一部のモデルのみ) : 有効/無効に設定します。仮想アプライアンスをサポートするために必要な基礎プロセッサおよびチップセット機能を制御します。この設定を変更するには、コンピューターの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります。初期設定では無効になっています。この機能を有効にするには、以下の機能を有効に設定する必要があります</p> <ul style="list-style-type: none"> 内蔵セキュリティ デバイスのサポート 仮想化技術 I/O 仮想化技術 <p>[内蔵セキュリティ デバイスのサポート] (Embedded Security Device Support) (一部のモデルのみ) : 有効/無効に設定します。内蔵セキュリティ デバイスをアクティブまたは非アクティブにできます。この設定を変更するには、コンピューターの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります</p> <p>注記 : 内蔵セキュリティ デバイスを設定するには、セットアップ パスワードを設定する必要があります</p> <p>[工場出荷時設定へのリセット] (Reset to Factory Settings) (一部のモデルのみ) : [リセット] (Reset) / [リセットしない] (Do not reset) に設定します。工場出荷時の初期値にリセットすると、すべてのセキュリティ キーが消去されます。この設定を変更するには、コンピューターの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります。初期値は[リセットしない]です</p> <p>注意 : 内蔵セキュリティ デバイスは、多くのセキュリティ スキームの重要なコンポーネントです。セキュリティ キーを消去すると、内蔵セキュリティ デバイスによって保護されているデータへのアクセスができなくなります。[工場出荷時設定へのリセット]を選択すると、重要なデータの損失につながる可能性があります</p> <p>[OS による内蔵セキュリティ デバイス管理] (OS management of Embedded Security Device) (一部のモデルのみ) : 有効/無効に設定します。このオプションを使用すると、内蔵セキュリティ デバイスの OS による制御を制限できます。この設定を変更するには、コンピューターの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります。初期設定では有効になっています</p>

表 4 コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [セキュリティ] (Security) (続き)

項目	説明
システムのセキュリティ (System Security) (一部のモデルのみ: これらのオプションはハードウェア依存) (続き)	[OSによる内蔵セキュリティ デバイスのリセット] (Reset of Embedded Security Device through OS) (一部のモデルのみ): 有効/無効に設定します。このオプションを使用すると、内蔵セキュリティ デバイスの工場出荷時設定へのリセットを要求する OS の機能を制限できます。この設定を変更するには、コンピューターの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります。初期設定では無効になっています 注記: このオプションを有効にするには、セットアップ パスワードを設定する必要があります
ドライブロック セキュリティ (DriveLock Security)	ハードディスク ドライブにマスター パスワードまたはユーザー パスワードを割り当てたり、パスワードを変更したりします。この機能が有効の場合は、POST 実行中にどちらかのドライブロック パスワードを入力するよう求められます。どちらのパスワードも正常に入力されなかった場合は、次のコールド ブート シーケンスの間にどちらかのパスワードが入力されるまで、ハードディスク ドライブにアクセスできません 注記: この項目は、ドライブロック機能をサポートするハードディスク ドライブが少なくとも 1 台システムに接続されている場合にのみ表示されます

コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [電源] (Power)


 **注記:** コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 5 コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [電源] (Power)

項目	説明
OS 電源管理 (OS Power Management)	<ul style="list-style-type: none">[実行時の電源管理] (Runtime Power Management) : 有効/無効。この機能を有効に設定すると、その時点でロードされているソフトウェアがプロセッサの最大能力を必要としない場合に、特定のオペレーティング システムによってプロセッサ電圧および周波数が下がります。初期設定では有効になっています[アイドル状態での省電力] (Idle Power Savings) : [拡張] (Extended) / [標準] (Normal)。[拡張]に設定すると、プロセッサがアイドル状態のときに、特定のオペレーティング システムがプロセッサの電力消費量を下げないようにします。初期値は[拡張]です[USB デバイスによるシステムの復帰] (USB Wake on Device Insertion) (一部のモデルのみ) : この設定を有効に設定すると、USB デバイスを差し込むことでシステムがスタンバイから復帰します[各スリープ状態時のランプの点滅速度] (Unique Sleep State Blink Rates) : [有効]/[無効]。システムがどのようなスリープ状態にあるかをユーザーに視覚的に示します。各スリープ状態には、固有の点滅パターンがあります。初期設定では無効になっています<ul style="list-style-type: none">S0 (オン) = ランプが緑色に点灯しますS3 (スタンバイ) = 1 Hz (50%のデューティ サイクル) で 3 回点滅した後、2 秒間休止します (緑色のランプ)。つまり、3 回の点滅と休止状態のサイクルが繰り返されますS4 (ハイパネーション) = 1 Hz (50%のデューティ サイクル) で 4 回点滅した後、2 秒間休止します (緑色のランプ)。つまり、4 回の点滅と休止状態のサイクルが繰り返されますS5 (ソフト オフ) = ランプが消灯します <p>注記: この機能が無効な場合、S4 および S5 の両方でランプが消灯します。S1 (サポートされていません) および S3 では、1 秒間に 1 回点滅します</p>
ハードウェア パワー マネジメント (Hardware Power Management)	<p>[SATA の電源管理機能] (SATA Power Management) : SATA バスまたはシリアル ATA パワー マネジメント (またはその両方) の有効/無効を設定します。初期設定では有効になっています</p> <p>[S5 最大省電力] (S5 Maximum Power Savings) : システムがオフのときに、重要でないハードウェアの電源をすべてオフにして、電力消費 1 ワット未満の EUP Lot 6 要件を満たします。初期設定では無効になっています</p>
温度 (Thermal)	<p>[ファン休止モード] (Fan idle mode) : この棒グラフでファンの最低速度を制御します</p> <p>注記: この機能では、ファンの最低速度のみ変更できます。ファン自体は自動的に制御されます</p>

コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [カスタム] (Advanced)


 **注記：** コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

表 6 コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [カスタム] (Advanced) (上級ユーザー向け)

項目	説明
電源投入時オプション (Power-On Options)	<p>以下の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none">• [POST モード] (POST Mode) の設定。[クイック ブート] (QuickBoot)、[メモリ消去] (Clear Memory)、[フル ブート] (FullBoot)、または[x 日ごとにフル ブート] (FullBoot Every x Days) から設定します<ul style="list-style-type: none">◦ [クイック ブート] (初期設定) =メモリを消去しません。メモリ テストを実行しません◦ [フル ブート]=コールド ブートでメモリ テスト (カウント) を実行します。すべてのブートでメモリを消去します◦ [メモリ消去]=コールド ブートでメモリ カウントを実行しません。すべてのブートでメモリを消去します◦ [x 日ごとにフル ブート]= 1 回目のコールド ブートのとき、または x 日後にメモリ カウントを実行します。1 回目のコールド ブートまで、および x 日より後にメモリ カウントは実行しません。すべてのブートでメモリを消去します• [POST メッセージ] (POST Messages) の有効/無効。初期設定では無効になっています• [ESC キーで起動メニューを表示] (Press the ESC key for Startup Menu) の有効/無効。初期設定では有効になっています• [オプション ROM プロンプト] (Option ROM Prompt) の有効/無効。この機能を有効に設定すると、オプション ROM をロードする前に画面にメッセージが表示されます (この機能は一部のモデルでのみサポートされます)。初期設定では有効になっています• [電源コードの抜き差し後の電源状態] (After Power Loss) の設定。[オン] (Power on)、[オフ] (Power off)、または[以前の状態への復帰] (Previous State) から設定します。初期値は [オフ] です。以下のように機能します<ul style="list-style-type: none">◦ [オフ] : コンピューターに電力が供給されても、コンピューターの電源は切れたままになります◦ [オン] : コンピューターに電力が供給されると、すぐにコンピューターの電源がオンになります◦ [以前の状態への復帰] : コンピューターが電源から切断されたときに電源がオンになっていた場合、電源に接続し直すとすぐにコンピューターの電源がオンになります <p>注記： 電源タップのスイッチを使用してコンピューターの電源を切る場合は、サスペンド/スリープ機能やリモート マネジメント機能を使用できません</p>

表 6 コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [カスタム] (Advanced) (上級ユーザー向け) (続き)


項目	説明
電源投入時オプション (Power-On Options) (続き)	<ul style="list-style-type: none"> • [POST 遅延時間] (POST Delay) (秒単位)。この機能を有効に設定すると、ユーザーが指定した遅延時間が POST プロセスに追加されます。この遅延時間は、PCI カード上のハードディスクの回転が遅いために、POST が完了した時点でブートの準備ができていない場合に必要となります。また、POST 遅延時間を設定すると、コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティを開くために F10 キーを選択できる時間が長くなります。初期値は[なし] (None) です。 • [リモート ウェイクアップ ブート ソース] (Remote wakeup boot source) の選択。[リモート サーバー] (Remote Server) または[ローカル ハードディスク ドライブ] (Local Hard Drive) を選択します。初期値は[ローカル ハードディスク ドライブ]です • [システム リカバリの起動サポート] (System Recovery Boot Support) の有効/無効。この機能を有効に設定すると、POST 実行中に[F11 = Recovery]と表示されます。この機能を無効に設定すると、テキストが表示されなくなります。ただし、F11 キーを押すと、HP バックアップおよびリカバリ パーティションからの起動が試みられます。詳しくは、「工場出荷時リカバリの起動サポート」(Factory Recovery Boot Support) の項目を参照してください。初期設定では無効になっています • [構成変更時の F1 プロンプトの回避] (Bypass F1 Prompt on Configuration Changes) の有効/無効。変更時に確認プロンプトが表示されないように設定できます。初期設定では無効になっています
BIOS 電源投入 (BIOS Power-On)	指定した時刻にコンピューターの電源が自動的にオンになるように設定できます
オンボード デバイス (Onboard Devices)	レガシー デバイスのリソースを設定したり、レガシー デバイスを無効にしたりします
バス オプション (Bus Options)	<p>一部のモデルで、以下の項目の有効/無効を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> • [PCI SERR#生成] (PCI SERR# Generation)。初期設定では有効になっています • [PCI VGA パレット スヌーピング] (PCI VGA Palette Snooping)。PCI コンフィギュレーション スペースに VGA パレット スヌーピング ビットを設定します。2 つ以上のグラフィックス コントローラがインストールされている場合にのみ必要です。初期設定では無効になっています

表 6 コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティ : [カスタム] (Advanced) (上級ユーザー向け) (続き)

項目	説明
デバイス オプション (Device Options)	<p>以下の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ターボ モード] (Turbo Mode) の有効/無効。システムのコアの 1 つがアイドル状態の場合にもう一方のコアを標準より高い周波数とパワーで稼働させることが可能な Intel ターボモード機能の有効/無効を設定できます。初期設定では有効になっています • [プリンター モード] (Printer Mode) の[双方向] (Bi-Directional)、[EPP + ECP] (EPP + ECP)、または[出力専用] (Output Only)。初期値は[EPP+ECP]です。 • [電源投入時の Num Lock 状態] (Num Lock state at Power-On) のオン/オフ。初期値はオフです • [内蔵ビデオ] (Integrated Video) の有効/無効。内蔵ビデオ コントローラー以外にもビデオ コントローラーが存在するシステムの場合、このオプションを使用すると内蔵ビデオ コントローラーを無効にできます。初期設定では有効になっています • [内蔵スピーカー] (Internal Speaker) (一部のモデルのみ) の有効/無効。外付けスピーカーの設定には影響しません。初期設定では有効になっています • [NIC オプション ROM のダウンロード] (NIC Option ROM Download) の設定。[PXE]、[iSCSI]、または[無効]を設定します。BIOS に含まれている内蔵 NIC オプション ROM により、コンピューターの起動時にネットワーク経由で PXE サーバーに接続できます。この機能は通常、共通イメージをハードディスク ドライブにダウンロードするときに使用します。NIC オプション ROM は DCH (DOS Compatibility Hole) 領域と呼ばれる 1 MB 未満のメモリ領域に格納されます。メモリ領域には制限があります。この[F10]オプションを使用して内蔵 NIC オプション ROM のダウンロードを無効に設定できるため、追加の PCI カード用にオプション ROM 領域が必要な場合、提供する DCH 領域を増やすことができます。初期設定では NIC オプション ROM が有効に設定されています。初期値は[PXE]です • [マルチプロセッサ] (Multi-Processor) の有効/無効。このオプションを使用すると、OS の下でマルチプロセッサのサポートを無効に設定できます。初期設定では有効になっています
VGA 構成 (VGA Configuration)	<p>複数の PCI ビデオ アダプタがシステムにある場合にのみ表示されます。VGA コントローラーのブートまたはプライマリ VGA コントローラーの設定を行います</p>
AMT 構成 (AMT Configuration)	<p>以下の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> • [AMT]の有効/無効。Active Management Technology (AMT) などの内蔵管理エンジン (ME) の機能の有効/無効を設定できます。無効に設定すると、管理エンジンが一時的に無効な状態に設定され、必要なシステム構成に含まれない機能が提供されなくなります。初期設定では有効になっています • [AMT/ME の構成解除] (Unconfigure AMT/ME) の有効/無効。AMT 用にプロビジョニングされた管理設定を構成解除できます。AMT 設定は工場出荷時設定に戻されます。構成解除すると、設定されている AMT 管理機能を AMT が提供できなくなるため、この機能の使用に際しては注意が必要です。初期設定では無効になっています • [ウォッチドッグ タイマー] (Watchdog Timer) の有効/無効。タイマーが非アクティブ化されない場合に、どれだけの時間が経過した時点でオペレーティング システムおよび BIOS ウォッチドッグ アラートを送信するかを設定できます。BIOS ウォッチドッグは BIOS によって非アクティブ化され、アラートが管理コンソールに送信された場合は、実行中に中断が生じたことを示します。オペレーティング システム アラートはオペレーティング システム イメージによって非アクティブ化され、初期化中にハングが発生したことを示します。初期設定では有効になっています

構成の設定値の回復

この方法で復元する場合、**[システム構成の復元]**を実行する前に、コンピューター セットアップ (F10) ユーティリティの**[リムーバブル メディアに保存]** (Save To Removable Media) コマンドを実行しておく必要があります。「コンピューターセットアップ (F10) ユーティリティ : [ファイル] (File)」の表を参照してください。

 **注記：** コンピューターの構成を変更したら、その構成を USB フラッシュ メディア デバイスまたはディスクと同等のデバイス (ディスク ドライブをエミュレートするよう設定された記憶装置) に保存し、将来使用できるようにデバイスを保管しておくことをおすすめします。

構成を復元するには、構成を保存した USB フラッシュメディアデバイスまたはディスクをエミュレートするその他の記憶装置を挿入し、コンピューターセットアップ (F10) ユーティリティの**[リムーバブルメディアから復元]** (Restore from Removable Media) コマンドを実行します。「コンピューターセットアップ (F10) ユーティリティ : [ファイル] (File)」の表を参照してください。